

埼玉県議会
浦和区版(号外)
民主党プレス民主編集局
〒100-0014
東京都千代田区永田町1-11-1
電話03-3595-9988(代表)
press@dpj.or.jp
http://www.dpj.or.jp

感動あさのめ新聞

埼玉県議会活動報告 2011.03.03 第020

「このままではダメだ」と多くの有権者の方々が思ったからこそ、国政でも、地方議会でも、民主党は力を与えていただけてきたはずだ。そのことを忘れてはいけない。今、民主党所属であることは、国政の混乱でとても辛いことだ。しかし、私は人の輪の中に入り、多くのご意見を真正面から受け、これからも歩いていきたい。守旧政治と対決し、不可能を打破し、改革の成果をこつこつ積み重ねてきた。私でなければできなかったこと、私たちがなければやり抜けなかったことを、強い意思でこれからもこつこつ積み重ねていきたい。それが政治の原点と私は信じている。



「できない」と思ったことは一度もない。「きっとどうにかすれば出来るはずだ」といつもそう思っている。中途失明した全盲の中学校教師を現場に戻す提案は不可能と言われた。しかしどうだろう。彼は秩父の中学校で堂々たる素晴らしい授業をしている。生徒は差別を拒む心を持つことだろう。不可能ではなかったのだ。

ある自民党議員から「県議会議員が領収証貼りだつてよ」と私は笑われたことがある。しかし政務調査費の使途全面公開は、三年前に民主党系県議団の執念で実現した。しかも使い切りが原則だったこの調査費を私たちは余ったものは返還してきた(08年度約3800万。自民は今も全額使い切り)。民間では当たり前のことだ。

約50年ぶりに歴史の扉をこじ開けたのでも確信し、民主党に所属している。けれども駅前での政治活動中、何度厳しいお声を受けたことだろう。

「このままではダメだ」と多くの有権者の方々が思ったからこそ、国政でも、地方議会でも、民主党は力を与えていただけてきたはずだ。そのことを忘れてはいけない。今、民主党所属であることは、国政の混乱でとても辛いことだ。しかし、私は人の輪の中に入り、多くのご意見を真正面から受け、これからも歩いていきたい。守旧政治と対決し、不可能を打破し、改革の成果をこつこつ積み重ねてきた。私でなければできなかったこと、私たちがなければやり抜けなかったことを、強い意思でこれからもこつこつ積み重ねていきたい。それが政治の原点と私は信じている。

今、民主党県議会議員であるという喜び。

- 私はやりました!
- 政務調査費の使途全面公開完全実施に向けての行動。→実現!!
 - 中途失明した全盲の中学校教師現場復帰させる。全国でも話題に。→実現!!
 - 県ホームページに防災情報バナーをはらせる。→実現!!
 - 地震防災のコントロール機能集中させるため、全県力カバーする防災センター建設求める。→実現!!(浦和区高砂)
 - 投資家買いたくなるよう、県債格付取得せよ。→実現!!

あさのめ ◆プロフィール◆ 浅野目 義英

- ◆昭和33年5月27日東京生。◆山形県米沢市育ち。◆4歳の時埼玉県へ。◆法政大学社会学部卒。
- ◆小学校教師を経る。◆隣接の上尾市で全国最年少の25歳で市議初当選。
- ◆市議4期(25~41歳)。◆37歳で全国最年少議長。◆上尾市長選挙次点敗退。
- ◆その後予備校講師、武正公一衆議院議員政策秘書など、政治浪人7年余を経て、埼玉県議会議員当選。
- ◆妻 智子との間に一男一女。◆缶コーヒーのおまけのミニカー集めが趣味。



感動県政 あさのめ新聞 vol.020

ご支援ありがとうございます!

2007年4月 → 2011年3月

県議としての任期ももう少しで終わろうとしています。

カー一杯働かせていただきました!

武正代議士 国会報告会で「県政報告」

年に一度、大規模な「県政報告会」

県議会での活動を様々な場所でキチンと報告させて頂きました。

2007年 2008年 2009年 2010年

●ご案内●

初当選から4年間、ほぼ毎日記した政治活動報告、日々感じたこと、想いなどをまとめ発刊しました。

埼玉県議会議員 そのありのままの姿

『四年間。』

あさのめ活動日記

浅野目 義英 著

お問い合わせは下記までどうぞ

民主党・無所属の会 浦和区支部(あさのめ事務所) 〒330-0043 さいたま市浦和区大東1-11-1-501
TEL 048-883-6560 FAX 048-881-0527 e-mail info@asanome.com

www.asanome.com

携帯サイト → www.asanome.com/mobile/

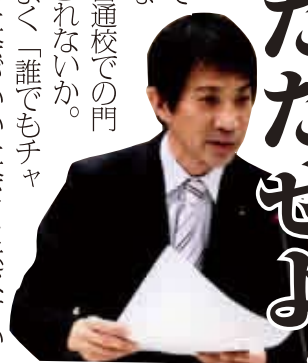
twitter で [y_asanome](https://twitter.com/y_asanome) をフォローしましょう!

駅頭から
あさのめ新聞
春夏秋冬
県政報告

人の輪の中に入る

福祉教育

光を失った教師 再び現場にたたせよ



あさのめ 人にとり光を失うというこは筆舌に尽くしがたい苦難。私は青年会議所時代、アイマスクをつけ階段で昇降歩行体験をしたことがある。「こんな苦勞をされているのか」と目が不自由な人の立場を初めて実感した。暗闇の中の不安と恐怖は強烈な印象として心に刻まれている。

人。とか
く盲学校での勤務になりがち。普通校での門戸を広げられないか。知事はよく「誰でもチャンスがある社会」と述べている。福岡出身だから知事はダメ。女性だから副知事はダメとは私は聞かない。すべての人にチャンスがあるということ。運命のいたずらで光を失った県立盲学校勤務の先生がいる。彼はもとも中学校教師。サッカー部の顧問でグラウンドで生徒と一緒に走り回る活発な、そして生徒から大変人気のある、また熱心に生徒と夢と希望を語る国語の先生だった。

両眼とも網膜剥離で右目視力0、左目は光を感じるだけ。だが普通校で再び教壇に立ちたいとの希望を持っている。「目が見えなくなった盲学校で」とか「いくら望んでも普通校では環境が整わないから働けない」とか「通勤に片道2時間半、5時間半かかる」と知らない」という県教育委員会の姿勢には納得できない。塙保四一の偉業を顕彰している埼玉県が理念を守り抜くためにも、全盲となった教師が普通校の現場で再び教えることへの道筋はかかるべき。教育委員会が判断することだが、知事の深い理解と強い指導力を求めたい。

「知事答弁には感動があった。感動こそが政治に必要」と再質問であさのめさんが言っていました。素晴らしいと思いました。新井先生に教えられた子たちは、差別を拒む心を持っています。目が見えないからこそ教えられることがあると思います。

星野さん



長瀬中で「復帰」したこの先生の歩みは本にもなり感動を呼んだ

地方財政

海外資本家や外資の県債購入 格付取得で応えよ

あさのめ 海外投資家や外資系企業が、地方自治体が資金の調達のために発行している地方債の購入に向け、極めて意欲的に名乗りを上げている。彼らが、視線を熱く注いでいるのは、国が後押ししているのが一因。来年1月から海外投資家が保有する地方債の利子収入にかかってきた所得税や法人税は非課税になる。参入の動きは一気に加速するだろう。改めて言うておくが、私は「積極的に

借金しろ」と言っている訳でも、これから言う訳でもない。資金を作るなら金を借りるなら、資金調達先を分散させたらどうかこういった手法の起債は埼玉県の名度アップにつながるのではないかと。投資家層も増えるのではないかと。調達したコストも下がるのではないかと提言したいだけだ。私はここに至り、海外投資家が買いたくなるような、買いやすくなるような格

玉県債のために行動すべきに思っている。県債の信用格付取得せよ。説明会など聞き、県債を売り込む必要がある。外資に売り込むことによって、外資系企業の埼玉県進出にもつながる可能性があるも出てくると思う。知事答弁 外国人投資家にとり埼玉県債が魅力的銘柄になるように努力したい。海外企業の誘致にもつながるという指摘、全くその通りと思っている。

実現!!

県債格付取得へ 投資家に健全性PR 県債格付取得は、投資家に健全性をPRし、格付取得を目指す。県債格付取得は、投資家に健全性をPRし、格付取得を目指す。県債格付取得は、投資家に健全性をPRし、格付取得を目指す。

「安定的な資金調達のため、県債の信用格付取得は、県にとり標準装備となるはず」とあさのめさんが訴えているのはとても納得できました。なぜそのことを今までスピード感も展開できなかったのか疑問です。これからは埼玉の人氣にもつながっていくのではないのでしょうか。

田中君

二人の若者(星野、田中)に、あさのめの議会活動を外部評価していただきました。No.1

防災

埼玉県庁 地震防災の指揮所としての機能 早急に固めよ!



あさのめ M7級地震が首都圏で30年以内に発生する可能性70%。政府は18パターンの首都直下型地震を想定。被害のレベルをシミュレーションしている。埼玉県で死者が出るもの8パターンもある。しかもHP上にごコメントされている。「荒川沿岸部は軟弱地盤が広範囲に分布。地震動が地表で増幅されやすい。液状化発生しやすい。同程度地震が他の地域で起きた場合に比べ大きな被害が想定一県民の命と財産を守り抜くため地震対策を完全なものとする議論を待たない。しかし、他の都道府県に比し対策にかなり差をつけられている。そもそも地震対策の県の真剣な意気込みが伝わっていない。

トップには、多くの都道府県に見られる「防災・震災情報のバナー」貼られていない。普段でも一日平均約1万6千件、年間約576万件ものアクセスがあるこのHPに、いったん危機となれば、安全情報を求め膨大なアクセスが殺到するはず。バナーを貼り県民に防災情報の門戸を広げべき。

1ト強度2500t。中性化8.1mm。あさのめ ③本庁舎、第二庁舎、第三庁舎これらをコネクトする「渡り廊下」三本の連絡橋の耐震強度は調査していないの。この部分の耐震強度を明らかに。あさのめ ④現状、防災行政無線室は第2庁舎8階、災害情報連絡室は同3階、庁議室は本庁舎2階。連絡調整の部屋が第2庁舎301会議室、警察消防自衛隊などとの連絡調整部屋は狭小で劣悪。テクノロジーとは縁遠く、ハイパフォーマンスとは言い難い。これで十分機能していくのか。

あさのめ ①県の顔と言えぬ埼玉県HPの

実現!! 今更で無かったのが信じられません。わずか2年で40万アクセス！どんなに県民の安心感に寄与しているのかと思えます。

あさのめ ⑤分散タコ足で動線考えると、連絡調整や情報収集に時間がかかり過ぎるはず。加えて、第2庁舎の各部屋などには、内部のパーティションがひしゃげ積み上げである荷物がひっくり返ることよく予想できる。指揮所と呼ぶにふさわしい災害対策本部を一方所に置き機能を集中させるべきではないのか。



星野さん

埼玉県は本当に安全か? 単なる幻想、意識改革必要。 「埼玉県は災害が少なく安全」とよく語られる。しかし、科学的データも根拠も全く聞いたことがない。県庁所在地で、今後30年以内に震度6以上の地震が起きる可能性は第3位だ。県ホームページに災害情報のバナーがなかった。県庁自体が一気に立ち返るBCPもなかった。全て改めるよう直言し実現させた。命を守る。気迫をこれから県に求め続けていきたい。

あさのめ ②本庁舎は築55年、耐震強度は0.16。0.3未満で倒壊の可能性が高くなる。これで防災の中枢機能果たせるのか。対策の指揮所であるはずの埼玉県庁本庁舎の耐震能力は著しく低い。耐震強度算定の基礎データである、コネクト強度または中性化の数値明らか。あさのめ 「議事堂を除き県庁舎全てが強度不足」という診断結果だ。コネク

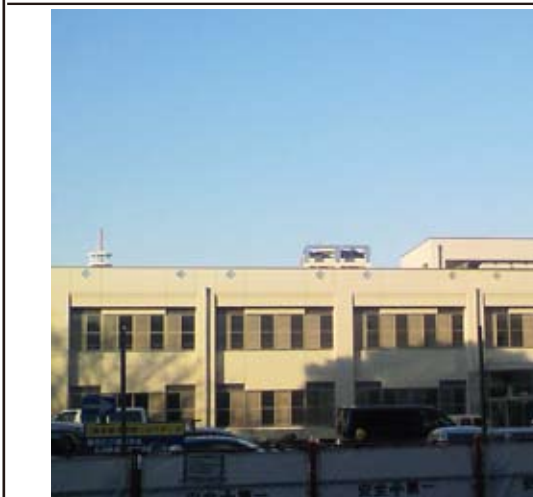
あさのめ ⑥分散タコ足で動線考えると、連絡調整や情報収集に時間がかかり過ぎるはず。加えて、第2庁舎の各部屋などには、内部のパーティションがひしゃげ積み上げである荷物がひっくり返ることよく予想できる。指揮所と呼ぶにふさわしい災害対策本部を一方所に置き機能を集中させるべきではないのか。あさのめ 災害対策本部として必要な機能、集約化につき庁内検討会を設置。現在検討を進めている。

実現!!

県防災センター建設へ 県庁舎の防災機能を強化 県庁舎の防災機能を強化し、防災センターを建設する。県庁舎の防災機能を強化し、防災センターを建設する。県庁舎の防災機能を強化し、防災センターを建設する。

災害状況をスクリーンで共有できる設備さえ、県で持ち合わせていなかったのは驚きです。県全体をカバーする地震などの防災のコントロールタワーが完成して「安心です。多くの命が救われることになると思います。」

田中君



防災センター 平成23年3月、浦和区に完成する。